

白い森おぐにから世界とつながる

～コミュニケーション力を高め国際理解を深める～

本町では、ふるさと小国を愛し、国際化する社会にも対応できる子どもたちの育成を目指し、「白い森おぐに保小中高一貫教育」と「地域学校協働本部」により、幼児期から高校までの町民総ぐるみでの教育に取り組んでいます。

今回は一貫教育において取り組まれている「国際」の授業について紹介し、国際化が進展する中で、その重要性が増しているコミュニケーション能力や異文化交流、異文化理解を育む教育について考えます。



オンラインを活用した国際交流



英語を使ったコミュニケーションに挑戦



デジタル教材を活用した「国際」の授業



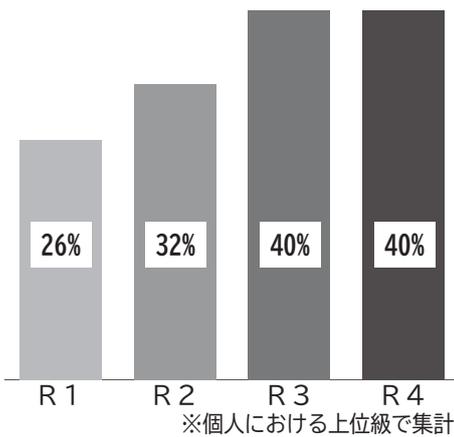
ゲームを取り入れながら英語に親しむ

進展する国際化に 対応する

日本全体で国際化が進展するなか、外国語によるコミュニケーション能力の重要性が増しています。国では、外国語教育に力を入れ、平成23年には小学校高学年で「外国語活動」が導入されました。また、平成29年3月31日の小学校学習指導要領の改訂では、小学3・4年生で「外国語活動」が、5・6年生では「外国語」が教科になり、令和2年度から実施されています。

本町では、平成23年に文部科学省から学校・地域の特徴に応じた教育課程を編成する「教育課程特例校」の指定を受け、特設教科「国際・情報」を設定し、白い森おぐに保小中高一貫教育の中で、幼児期から高校まで一貫して取り組んでおり、外国語を用いて主体的にコミュニケーションを図る能力・資質の育成を目指

英検3級・準2級中学校卒業時取得率



町内の保育園、認定こども園では「幼児ふれあい英語活動」を実施し、小学校では「外国語活動」、「外国語」が教科となる以前から「国際」として英語の授業を行い、低学年においても「国際」の授業を展開しています。

また、中学生の実用英語技能検定（以下、英検）の受験も支援しています。町内の中学校では1年生で5級、2年生で4級を受験しており、その受験料の一部を助成するほか、3級以上を受験する生徒には、年に1回、受験料の全額を補助しています。白い森

学習支援センターでは中学生パワーアップスクールとして英検3級以上の合格を目指した学習会と面接練習を実施しています。こうした取り組みにより、本町中学生の英検取得率が向上しています。

本町の「国際」の取り組みについて、授業のコーディネートを手がける八木幸夫国際・情報特任講師に話をうかがいました。

『国際』の取り組みのうち、保育園から小学校低学年にかけては英語教育推進員の村上裕志さんが、小学中学年から中学生までは私が、授業担任の先生がたのコーディネーターのお手伝いをしています。

小学校低学年の授業では、保育園での英語活動の内容を復習するとともに中学年の『外国語活動』に円滑に移行できるように、必要な学習内容をカリキュラムに反映しています。今年度から始まった高学年の『どきどき



▲どきどきCommunication Timeでは英語のみで会話を行う

コミュニケーションタイム Communication Time』では英語によるコミュニケーション能力を養うとともに、中学校での英語教育につながることを意識した指導を行っています。6年生の3学期に実施する授業では、中学校の英語教育に直接触れる機会を設ける予定です。

中学校の『国際』ではコミュニケーションを中心にした授業を展開し、1学年では、英語のスピーチを行うことを目標に学習します。2・3学年ではオンラインを活用し、海外の中学生や日本語学校の学

生と交流を行います。

また、高校では、これまで培ってきた語学力やコミュニケーション能力を活用し、海外への短期留学や国際交流の面で学習の成果を発揮しています。

小国町は先見の明を持って『国際・情報』を教科化したしました。時を経て、今ではICTが普及し、小学校での英語も必修となりました。『国際・情報』での取り組み内容が一般化する中で、今後どのような特徴を出していくのかが、課題となっています」

**楽しみながら
英語と触れあう**

町内の保育園で実施している幼児ふれあい英語活動は「英語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、ことばによるコミュニケーションへの関心や態度を育む」ことを目標に取り組んでいます。主に年中と年長の園児を対

特集 白い森おぐにから世界とつながる ～コミュニケーション力を高め国際理解を深める～

象に実施し、年中児では英語のあいさつや自己紹介のほか、天気や体の部位、色、形等を、年長児では動植物や感情、感覚等の表現に取り組みます。活動の中で子どもたちは歌や踊り、遊びを通じて、英語と触れあい、親しむ活動を体験しています。

世界とつながる

1月18日の叶水小学校5・6年生による「国際」の授業では、町のALTであるオズランド先生に日本の行事を英語で伝えるため、行事の時期や内容について英語で表現する学習を行いました。

5年生の江口羽月さんは「オズランド先生にはひな祭りがとても楽しい行事だと説明したいです。英語は1年生から授業を受けていて、難しいけれど楽しいです。6年生になってもつと英語を勉強することが楽しみです」と授業



▲画面の向こうの相手に日本の文化を伝える

の感想を話していました。

また、中学校の「国際」の授業では、オンラインを活用した交流を行っています。

小国中学校と叶水中学校の3年生は「ふるさとの良さを英語で発信しよう」とオンライン交流を通して「」をゴールに設定し、小国や学校生活について写真やイラストを使いながら、英語でプレゼンテーションできるように練習を行いました。

昨年7月には神戸市にある日本語学校とのオンライン交

流を実施し、日本語を学ぶ外国人の学生に、自作の説明資料を示しながらプレゼンテーションしました。

オンラインでの国際交流について生徒からは「相手の話した英語がわからなくても、聞き返したりしながら会話をつなげることができました」、「もつとスムーズに話せたらさらに楽しくなると思います。これからは英語を話すことをさらに頑張りたいです」といった前向きな感想が多く聞かれました。

どちらも英語での他者とのコミュニケーション能力を高めることを重視した授業です。

世界にはばたく

県立小国高校では語学力を高めるとともに国際理解を深めるため、平成17年からコラド州デンバーのイースト高校への2週間の短期留学を実

施しています。町でも保小中高一貫教育における継続した取り組みの成果を最高学府として発揮する場であり、国際理解教育を更に充実するため支援をしています。

令和4年度は3人が参加しました。参加者に留学先での体験を聞くと、「アメリカに行く前はすごく不安でしたが、とても過ごしやすい環境でした。高校の授業は、日本とは異なり、みんな教室の中を歩き回り互いに教えあっている楽しかったです。留学先



▲短期留学で学んだことを報告する様子

が日本語を教えているクラスだったので、日本の文化について聞かれることが多く、日本に興味を持っていてる学生がたくさんいることを実感しました。帰国した際に感じたことは、『やはり小国がいい』ということでした。小国は安心するところだと再認識できました」と日本とアメリカの違いや、留学を通じて、町に対する認識が変わったことを語ってくれました。

国際的な視野を持つ 子どもを育む

本町では、全国に先駆けて「国際」の授業を一貫教育の中で展開してきました。

幼児期から高校まで連続性をもって学ぶことにより、語学として学ぶだけではなく、国際社会に高い関心を持ち、海外の人とのコミュニケーションに臆することなく挑む力を持った子どもの育成を目指しています。

これらの能力は国際化が急速に進展する現在、そして未来において重要な力です。町ではこれからも、保小中高一貫教育を柱に、国際的な視野を持ち、国際社会で活躍できる人間力を持った子どもたちの育成に取り組んでいきます。

マレーシアの中学生と交流（小国中学校）

小国中学校の2年生は「マレーシアとのオンライン国際交流」をゴールに設定し、事前に会話を聞き取るリスニングやトピックを決めた英会話に繰り返し取り組みました。また、元小国町地域おこし協力隊の阿部宣行さんを講師に、マレーシアの暮らしや文化、日本との違いを学ぶ講話を開催し、理解を深めました。

昨年11月に実施したオンライン国際交流本番では、英語と日本語を織り交ぜながら、自己紹介や互いの国の文化等について紹介し交流を深めました。

英語を楽しむ（白百合保育園）

1月15日に実施された幼児ふれあい英語活動では、年中のゆり組と年長のさくら組の子どもたちがパネルを使って天気や干支を英語で学びました。

その後、ゆり組では虹の色を英語の歌で歌いながら学び、丸や三角といった形を英語で答え、同じ形のものを教室のなかから見つける遊びを楽しんでいました。



▲遊びを通じて英語での表現を身につける

英語のクイズを作成（叶水小学校）

1月18日に行われた叶水小学校3・4年生の「国際」の授業では、英語でのクイズづくりに取り組みました。

色や形、種類といった3つのヒントを出して、答えを当てるクイズを英語で作成し、クラス全員で出題しあい、楽しみながら英単語の読み方や書き方を学んでいました。



▲自作のクイズを英語で出題